

Aサロン活動報告

Aサロン
田中栄治

Aサロンの活動

- **目的**

自助力向上を目指す（事前の減災対策）

- **テーマ**

自分の命は自分で守れるように、基礎的な防災知識と技をわかりやすくまとめる

- **アクション プラン**

「自助の取り組み例」を検証し、優先順位をつけてわかりやすい資料を作成

2年間の主な活動

- 2021年4月～2022年3月
 - ― 「震度6強の首都直下地震に備える耐震化推進」の提案作成
 - ―>9月談義の会で講演
 - ― だるま会員へ首都直下地震の備えに関するアンケートを実施
- 2022年4月～2022年11月
 - ― 「震度6強の首都直下地震に備える耐震化推進」一部変更
 - ―>エクステーション講座（別途、専門家から技術的な説明追加）
 - ― 「地域のマルチハザード解析と対策」
 - ―>9月談義の会、エクステーション講座
 - ― 「2021年平塚の風水害について」Aサロン勉強会
 - ― 今後のAサロンの活動の進め方について

「震度6強の首都直下地震に備える耐震化推進」の要旨

阪神・淡路大震災では90%以上の方が建物倒壊でなくなっている。そのため、震度6強の首都直下地震に備えるための耐震化推進が必須です。内閣府は令和2年度の耐震化率の目標を95%として推進してましたが、横浜市は90%で目標は未達でした。

・その理由

—旧耐震住宅所有者が高齢者だった

費用が高額、耐震補強の有効性を理解できない、工法・費用の妥当性の評価ができない

—自治会・自主防災組織が耐震化推進をしてこなかった

行政任せにしてきた、第三者が口をはさめないと思った、専門的知識の欠如

・提案

—「耐震化の世話人」を目指す

旧耐震住宅所有者に耐震化必要の理由を説明し検討のテーブル(耐震診断)につかせる

—倒壊家屋からの救出計画作成の進め

救出計画作成により地域の人員・装備が不足が明確になり、地域で耐震化が推進される

首都直下地震の備えのアンケート

- アンケート実施時期：2022年3月21日～4月2日
- 回答数：だるま会員20名(アンケート送付は全会員へ送付)
- 全体を通しての所見

公助・共助に期待する意見もありましたが、大災害発生から数日は公助・共助はあてにならないと考え、まずは自助で何とかするという覚悟で備えるべきと思います。たとえ行政が被災者支援の仕組みを作っても、実際に動くのは自治会役員や自主防災隊となり、結局は我々が動かざるを得ないことを認識しておくことです。しかし、自分や家族が大変な状態であれば、他人を助ける行動ができるとは限りません。結局は自助の備えが最重要となります。従って、平時に自助の備えを強化する助けをすることが最も有効な共助であるともいえます。

「地域のマルチハザード解析と対策」の講演要旨

行政によって多くのハザードマップがWeb上に公開され、紙ベースもここの自宅に配布されています。また防災に役立つオープンデータも数多く公開されていますが、情報量が多く、効果的な活用は難しくなります。情報量を落とした視点で評価できる「マルチハザード解析」についての紹介をいたします。

—自然災害は素因(自然的要因、社会的要因)・誘因(外力:地震・水害等)による

—オープンデータの利用

国土数値情報、基盤地図情報、e-Stat、KuniJban デジタル台風、J-SHIS 等

—気候変動の現状

気候変動により気象災害が激甚化し高頻度になってきた

—なぜマルチハザードなのか

気象災害が激甚化してきたため、地震も含めたマルチハザードでの検討が重要

—マルチハザードの評価は実施できるが、オープンデータの随時更新が課題

2021年平塚の風水害について

災害情報から学ぶ自助力向上

- 平塚市金目川 氾濫発生:2021年7月3日
- 警戒レベル5(緊急安全確保):7月3日午後7時4分発令
- 洪水災害はどのように起こったか
 - 天候の特徴、降水量と河川水位情報、金目川の流域治水、浸水地区
- 気象現象
 - キキクル、災害危険情報、雨雲の動き(レーダーナウキャスト)
 - 台風情報、実況天気図、エルニーニョ監視速報
 - 日本の上空の風の流れ、海水温の変化と台風の関係

今後のAサロンの活動について

- **耐震化推進の活動を継続**

 - 旧耐震住宅視察、簡易耐震診断法等

- **ハザードマップの利活用**

 - ハザードマップポータルサイト(重なるハザードマップ)、地形分類図

- **災害関連死を防ぐ**

 - 災害で生き残っても、関連死でなくなる人が増えてきた

- **女性の視点からの防災**

 - 防災分野への女性進出が遅れている、平日の昼は女性がキー

- **地域の街歩きの実践**

 - 地域の災害リスクの確認、防災・減災を理解する

Aサロンの課題(田中栄治個人の意見)

- **2022年度のAサロン活動の取り組みは限られていた**
談義の会の後のサロン別会議は何のため(全体でいいのでは)
役員会後のサロン会の開催が不明(招待メールがいつ送付?)
サロン独自の会議が少なかった(もっと増やす必要があるのでは)
- **自助力向上だけの取り組みは難しい**
少なくとも共助も併せて取り組む必要がある
- **他のサロン活動との交流に関して**
交流の意見があるようですが、現状Aサロン活動は活発ではない。
交流する理由は何でしょうか。→統合すればいいのでは